

余暇施設開発の実際 28.

スキー場関係者の余暇活動意識の要因について スキー場関係者 余暇活動意識 特性要因 余暇施設開発

正会員 ○西口真也*2
三上訓顯*3
稲垣菜月*1

1. はじめに

前報告^{注1)}に引き続き、本報の目的は、スキー場関係者に対するアンケート調査の結果、構築されたデータベースに基づき、余暇活動に対する彼らの評価を探ることにより、余暇活動を特徴づける要因を明らかにすることである。このための方法として多変量解析を用いた。

2. 主成分の抽出と各主成分特性について

主成分分析を用いて主成分及び成分行列を算出した。各主成分の固有値、寄与率を示したのが表1である。寄与率でみると、主成分1:13.89%、主成分2:9.02%、主成分3:8.47%、主成分4:8.01%、主成分5:5.98%、主成分6:4.93%、主成分7:4.68%となり、主成分1~4が比較的大きな近似値で出現した。そこで、過半以上を説明できる主成分6までを採用した。主成分6までの累積寄与率は50.30%である。次いで、各主成分の意味を成分行列で考察したのが図1である。

表1 固有値・寄与率

成分No.	主成分1	主成分2	主成分3	主成分4	主成分5	主成分6	主成分7
固有値	6.95	4.51	4.24	4.01	2.99	2.46	2.34
寄与率	13.89	9.02	8.47	8.01	5.98	4.93	4.68
累積寄与率	13.89	22.91	31.38	39.39	45.37	50.30	54.98

主成分1について

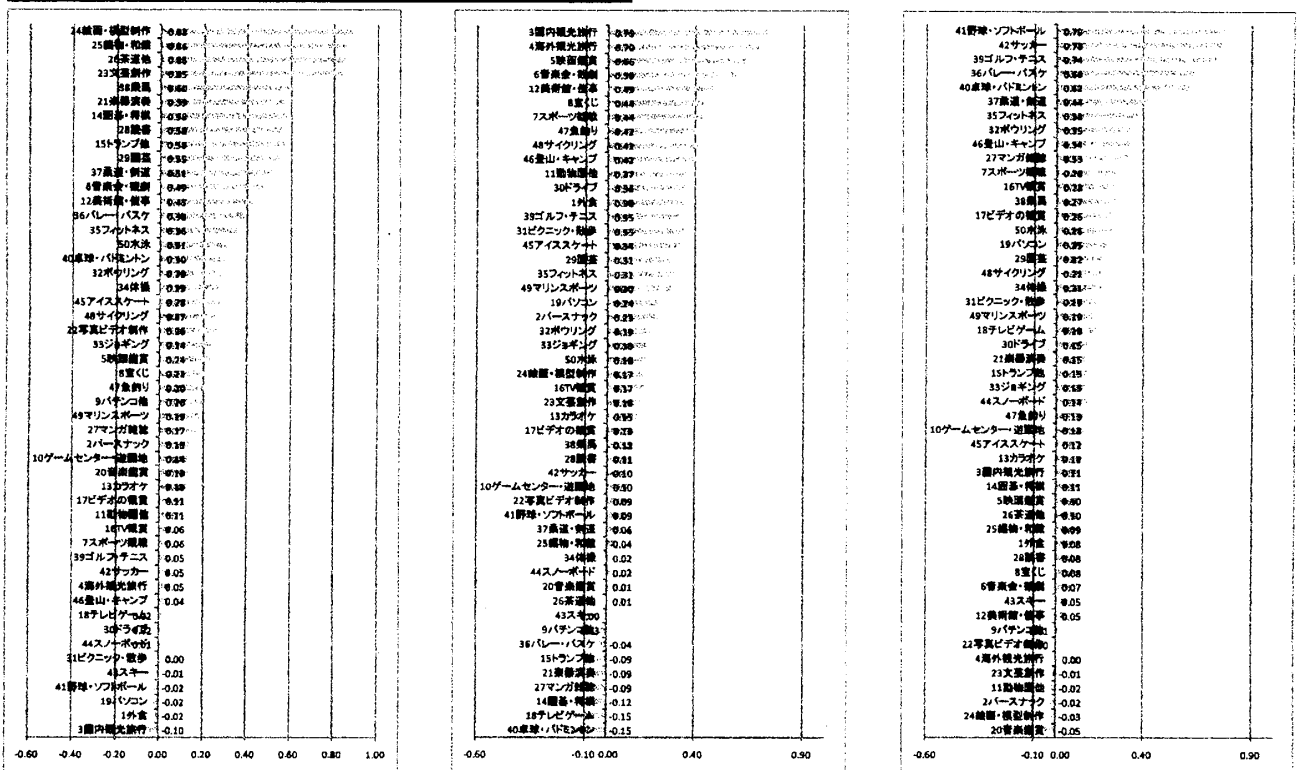
スコアの+側に24) 絵画・模型制作:0.88、25) 編物・和裁:0.86などが並んでいる。-側を見ると、3) 国内観光旅行:-0.10などとなっており、+側の数値の高い余暇活動群に、主に文化的な表現活動が並んでいる点に特色がある。これらのことから、この主成分は、余暇活動における文化性の程度を表わす主成分と判断し、「文化性」の主成分と呼ぶことにする。

主成分2について

スコアの+側に3) 国内観光旅行:0.75、4) 海外観光旅行:0.70などの項目が並ぶ。逆に、-側は、40) 卓球・バドミントン:-0.15、18) テレビゲーム:-0.15などとなっている。+側に知的好奇心を満たそうとする余暇活動が並んでいることから、この主成分は、余暇活動で知的好奇心を満たそうとする程度を表わす主成分と判断し、「知的好奇心性」の主成分と呼ぶことにする。

主成分3について

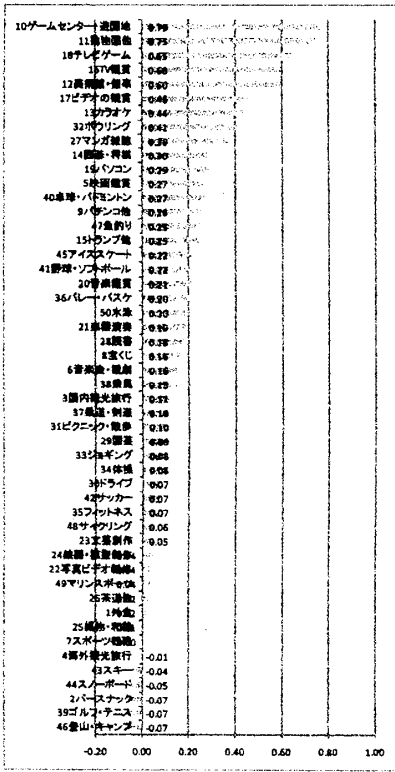
スコアの+側に41) 野球・ソフトボール:0.79、42) サッカー:0.78、39) ゴルフ・テニス:0.74、36) バレー-



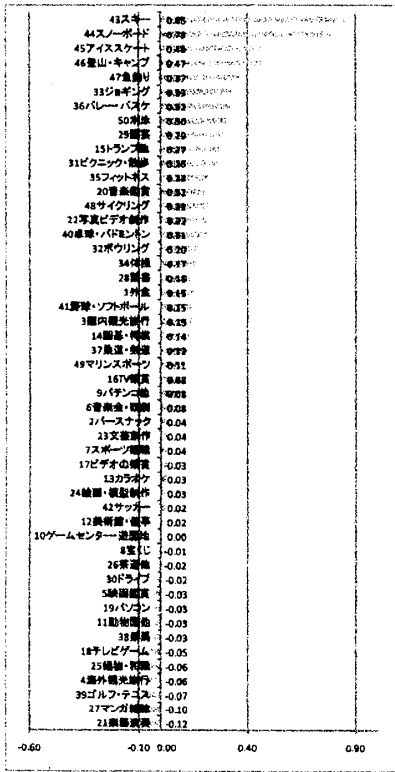
1.1 第1主成分
図1 成分行列図

A Practical Site of Development on the Leisure Facilities Part 28.
About a factor of the leisure activity awareness of the staff of ski areas.

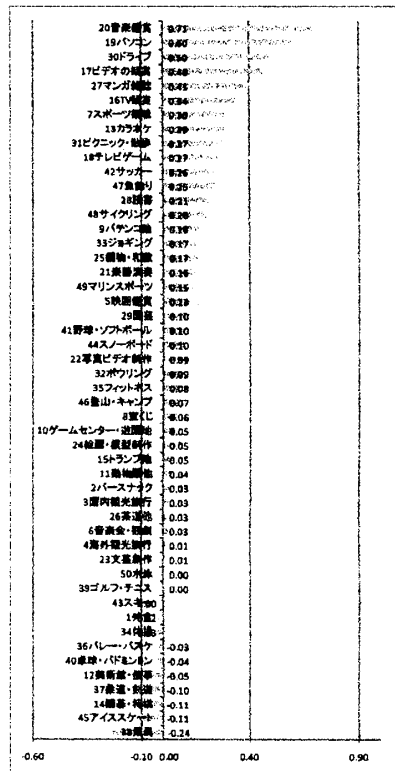
NISHIGUCHI Shinya et al



1.4 第4主成分



1.5 第5主成分



1.6 第6主成分

バスケットボール:0.68などの項目が並んでいる。逆に、一側は、20) 音楽鑑賞:-0.05、24) 絵画・模型制作:-0.03などとなっている。+側には主要なスポーツ活動の項目が並んでおり、対極に音楽鑑賞、絵画・模型制作等の余暇活動が出現していることから、余暇活動における競技性の程度を表わす主成分と判断し、「競技性」の主成分と呼ぶことにする。

主成分4について

両極でスコアが顕著なものを挙げると、+側では、10) ゲームセンター・遊園地:0.79、11) 動物園他:0.75などとなっている。逆に、-側では、46) 登山・キャンプ:-0.07、39) ゴルフ・テニス:-0.07などが並んでいる。+側には、さらに18) テレビゲーム:0.65などが並んでおり、主に娯楽として楽しむ余暇活動が並んでいることから、余暇活動における娯楽性の程度を表わす主成分と判断し、「娯楽性」の主成分と呼ぶことにする。

主成分5について

スコアの+側には、43) スキー:0.85、44) スキー・スノーボード:0.79、-側には、21) 楽器演奏:-0.12、27) マンガ雑誌:-0.10などが並んでいる。+側には、さらに46) 登山・キャンプ:0.47、47) 魚釣り:0.37などと続いていることから、余暇活動のアウトドアの程度を表わす主成分と判断し、「アウトドア性」の主成分と呼ぶことにする。

主成分6について

+側には、20) 音楽鑑賞:0.71、19) パソコン:0.60、-側には、38) 乗馬:-0.24、45) アイススケート:-0.11などが並んでいる。+側には、さらに30) ドライブ:0.50、17) ビデオの鑑賞:0.46など気軽に取り組める余暇活動が並んでいることから、余暇活動における気軽に取り組むことのできる程度を表わす主成分と判断し、「軽易性」の主成分と呼ぶことにする。

3.まとめ

以上の考察により、余暇活動を特徴づける要因として「文化性」「知的好奇心性」「競技性」「娯楽性」「アウトドア性」「軽易性」の6つを抽出した。

本報の結果から、スキー場関係者においては、余暇活動に対して典型的な余暇活動像が持たれているのではないかと考えられる。また、これらスキー場関係者と、昨今の利用者側の余暇活動意識との間にギャップが生まれている可能性も考えられる。

本報の結果は、スキー場関係者からみた余暇活動を特徴づける要因の一端を明らかにしており、これらを一つの方向性として、より魅力的な余暇施設の実現を目指したい。具体的な余暇施設の開発手法の提案については今後の検討対象としたい。

注

注1. 本報 No27. で得たデータを使用。

※1 名古屋市立大学大学院 基工学士
 ※2 名古屋市立大学大学院 研究員・経営学
 ※3 名古屋市立大学大学院 教授・博士(デザイン学)

Nagoya City University Graduate School.
 Nagoya City University Graduate School.
 Nagoya City University Graduate School .Prof.Nagoya City University Graduate School .Ph.D.